

日本語版への序 2

PART ①

断片化と全体性 10

A 断片的な世界観を超えて 13

1 — 断片化がもたらした現代の危機

2 — 世界観の一例としての科学理論

3 — 断片的な思考がもたらす幻想

4 — 原子論から世界ワールドの描像へ

5 — アリストテレスと現代物理学

6 — 科学と社会に根をひろげる原子論

7 — 断片化に終止符を打つために

B 西洋と東洋の全体性に対する洞察 47

1 — 基準キジュンについての古代ギリシアの見解

2 — 失ウシなわれた内的基準

3 — 東洋における測定不可能な実在

4 — 過去の知恵の継承と現代における独創

5 — 全体性への探究

PART © 2

言語と思考の機能に対する探究 64

A 断片化と全体性 67

1 — はじめに

2 — 思考の实在性リアリティについて

- 3 — 思考内容と思考機能の間の断片化
- 4 — 世界観の必然的な不完全性について
- 5 — 現代物理学が暗示する、運動と分割不可能な全体性の一次性
- 6 — 「アート」としての芸術、科学、数学
- 7 — 形而上学、および普遍的な適合の運動
- 8 — 真理、形而上学、言語

B レオモード——言語と思考に関する実験

- 1 — はじめに
- 2 — 言語に対する探究
- 3 — レオモードの形式
- 4 — レオモードにおける真理と事実
- 5 — レオモードが含意する形而上学
- 6 — レオモードによる言語機能の検討

7——さらなる探究と実験の概観

解題にかえて 村上陽一郎 197

訳者あとがき 佐野正博 205

著者紹介／訳者紹介 216

本文脇の☆印のついた数字は各P R A T末尾に掲げた注に対応しています。